

## 116 七十二人を派遣する

ルカによる福音書 10 : 1~24

### ▶七十二人を派遣する (ルカによる福音書 10 : 1~12)

01 その後、主はほかに (御自分に付き従っていた弟子の中から) **七十二人**を任命し、御自分が行くつもりのですべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。

→「七十二人」(ルカ 10 : 1、17 のみに登場する) : 新共同訳、seventy-two others (NIV)、口語訳、聖書協会共同訳。ただし、NEW KING JAMES VERSION、回復訳、リビング・バイブルは「七十二人」ではなく、「七十人」(seventy others) となっている。

救い主は、彼の務めを担う七十人の弟子たちを立てられました。それは、神がモーセに命じられたように、モーセが自分の負担を担う七十人の長老を立てたのと同じです。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 8 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K 出エジプト記	24:1 主はモーセに言われた。「あなたは、アロン、ナダブ、アビフ、およびイスラエルの七十人の長老と一緒に主のもとに登りなさい。あなたたちは遠く離れて、ひれ伏さねばならない。	
K 出エジプト記	24:9 モーセはアロン、ナダブ、アビフおよびイスラエルの七十人の長老と一緒に登って行った。	
K 民数記	11:16 主はモーセに言われた。「イスラエルの長老たちのうちから、あなたが、民の長老およびその役人として認めうる者を七十人集め、臨在の幕屋に連れて来てあなたの傍らに立たせなさい。	
K 民数記	11:24 モーセは出て行って、主の言葉を民に告げた。彼は民の長老の中から七十人を集め、幕屋の周りに立たせた。	
K 民数記	11:25 主は雲のうちにあって降り、モーセに語られ、モーセに授けられている霊の一部を取って、七十人の長老にも授けられた。霊が彼らの上にとどまると、彼らは預言状態になったが、続くことはなかった。	
K 士師記	8:14 彼はスコトの人々の中から一人の青年を捕らえて尋問し、スコトの指導者と、長老七十七人の名を書かせた。	
K 列王記下	10:1 アハブの子供が七十人サマリアにいた。イエフは手紙を書いてサマリアに送り、町の指導者、長老たちとアハブの子供の養育者たちにこう伝えた。	
K エゼキエル書	8:11 その前に、イスラエルの長老七十人が、シャファンの子ヤアザンヤを中心にして立っていた。彼らは、それぞれ香炉を手にしており、かぐわしい煙が立ち昇っていた。	

02 そして、彼らに言われた。

「**収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい** (→新改訳 : 祈りなさい、NIV : Ask=頼む、願う、NKJV:pray)。

→ (回復訳) そして彼らに言われた、「**収穫は多いが、働き人は少ない。だから、収穫の主に祈り求めて、彼の収穫のために働き人を送り出していただきなさい。**

03 **行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、(危険な) 狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。**

→当時のユダヤ人たちは、自分たちのことを「狼 (=異邦人) の中にいる羊」(格言) と呼んでいた。

04 **財布も袋も履物 (→サンダル) も持って行くな。(世間体だけの挨拶をすると無駄に長い時間を要するので) 途中でだれにも (余計な) 挨拶をするな。**

→何も持たずに行きなさい。神がすべてを備えてくださる。

→コリントの信徒への手紙二 6 : 10

悲しんでいるようで、常に喜び、貧しいようで、多くの人を富ませ、無一物のようで、すべてのものを所有しています。

05 どこかの家に入ったら、まず、『この家に平和があるように』と言いなさい。06 平和の子がそこにいるなら、あなたがたの願う平和はその人とどまる。もし、(平和の子が) いなければ、その平和はあなたがた(→派遣される72人の弟子たち)に戻ってくる。07 (見ず知らずのあなたたちの挨拶一祈りを喜んで受け入れてくれる信者の人がいたならば、) その家に泊まって、そこで出される物(は選り好みせず、何でも) を食べ、また飲みなさい。(なぜなら、あなたたちはわたしの働き人として派遣されており、) 働く者が報酬を受けるのは当然だからである。(また) 家から家へと(食事の内容や接待の内容で泊る家を変えて、) 渡り歩く(ようなことはする)な。

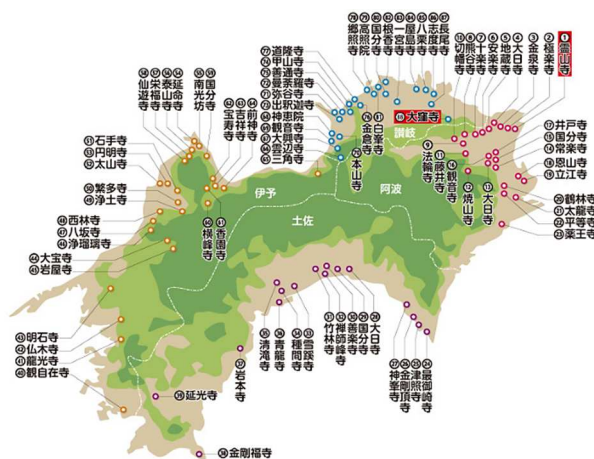
08 どこかの町に入り、迎え入れられたら、出される物を食べ、09① その町の病人をいやし、また、②『神の国はあなたがたに近づいた』と言いなさい。

→当時のユダヤ社会では、旅人へのおもてなしが極めて重要であった。

**【参考】** 思いやりの文化、四国の「お接待」

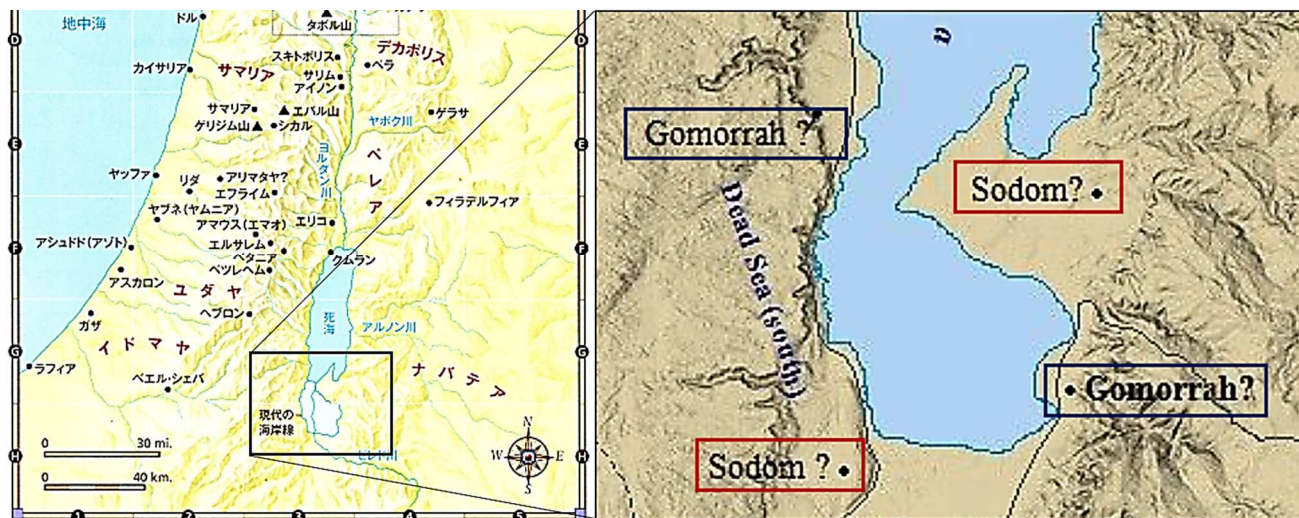
弘法大師空海が開かれた四国八十八ヶ所を巡礼する「四国遍路」。巡礼する人を「お遍路さん」と呼ぶが、四国遍路をしていると、食べ物や飲み物をふるまわれる「お接待」を受けることが多い(注誰も当然に受けられる無料のサービスではない)。お接待を受けたときは、ありがたくお受けするのがマナーとされている。

四国ではお遍路さんは大師様(弘法大師空海)と同じと考えるため、お接待は「大師様への功德」とされています。また「自分の代わりにお参りを託す」ともされるため、お賽銭として現金をいただくこともあります。お接待には、お菓子やお茶などを出してくださる接待所、無料で宿泊することができる「善根宿(ぜんこんやど)」や「通夜堂(つやどう)」と呼ばれる宿泊施設など、いろいろあります。



10 しかし、町に入っても、迎え入れられなければ、(落胆せず) 広場に出て(拒絶の気持ちを表す方法として) こう言いなさい。・・・残念ですが、私たちとあなたたちとは全く無関係です・・・

11 『足についたこの町の埃さえも払い落として(→拒絶の表現、使徒13:51、マタイ10:14、マルコ6:11、ルカ9:5)、あなたがたに返す。しかし、神の国が近づいたことを知れ』と。12 言うておくが、かの日(→神の裁きの時)には、その町よりまだ(神によって滅ぼされた) ソドムの方が軽い罰で済む。」



©2000, American Bible Society (左地図)

▶悔い改めない町を叱る (ルカによる福音書 10 : 13~16)

13 「(ああ) **コラジン**、お前は不幸だ。**ベトサイダ**、お前は不幸だ。お前たちのところでなされた奇跡が (異邦人の町) **ティルス**や**シドン**で行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰の中に座って悔い改め (お前たちよりも早く、神に立ち帰っ) たにちがいない。

→粗布は、らくだと山羊の毛で出来た暗い色の服で深い悲しみにある時や自分自身の罪を悔いるのを示すために体にまとい、頭に灰 (ギリシア語では、煤の一種) をかぶった (エステル 4 : 1、3、ヨブ 2 : 8)。

14 **しかし、裁きの時には、お前たちよりまだ** (異邦人の町) **ティルス**や**シドン**の方が軽い罰で済む。

→この時代、神が世界の人々を裁く時が待ち望まれていた。キリストにより頼む者は救われるが信じない者には神の怒りと裁きがある (マタイ 13 : 47~50、25 : 31~46、ヨハネ 12 : 44~50)。



15 また、**カファルナウム**、お前は、／天にまで上げられるとも思っているのか。**陰府**にまで落とされるのだ。

16 **あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾け、あなたがたを拒む者は、わたしを拒むのである。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。**

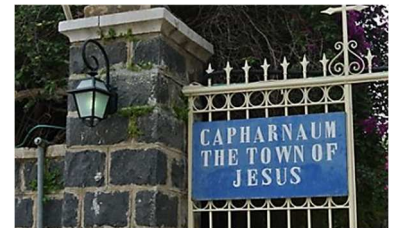
→カファルナウムは、イエスが選ばれたホームタウンであるのに、イエスを受け入れようとしなかった。

→わたしを遣わされた方 (=神)

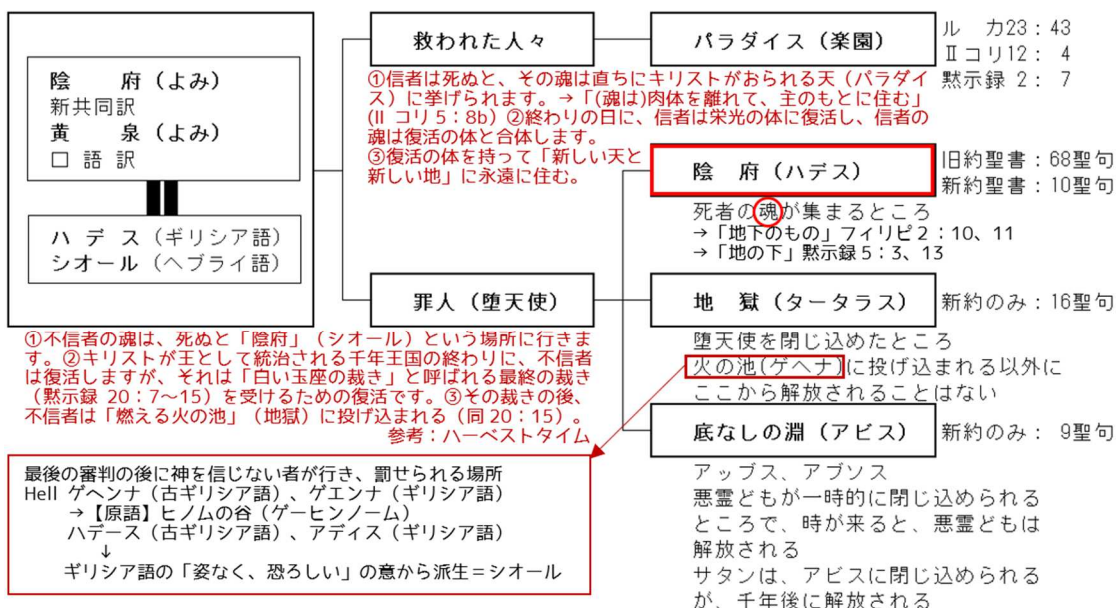
→サムエル下 24 : 13、歴代誌上 21 : 12、マタイ 10 : 40、ヨハネ 12 : 44、45

→わたしをお遣わしになった方

マルコ 9 : 37 他



【参考】陰府 等



ペトロの手紙二 2 : 9

主は、信仰のあついで人を試練から救い出す一方、正しくない者たちを罰し、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。

▶七十二人、帰って来る（ルカによる福音書 10：17～24）

17 **七十二人**は喜んで帰って来て、こう言った。

「**主よ、お名前を使うと、悪霊さえもわたしたちに屈服します。**」

→悪霊は多くの病気や心の病の原因とされていた。

18 イエスは言われた。

「**わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見ていた。** →将来起こることの預言

→ヨハネの黙示録 12：7～9

さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、勝てなかった。そして、もはや天には彼らの居場所がなくなった。

この巨大な竜、年を経た蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者は、投げ落とされた。地上に投げ落とされたのである。その使いたちも、もろともに投げ落とされた。

19 **蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち勝つ権威を、わたしはあなたがたに授けた。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つない。** 20 **しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んで****ではない。**（悪霊に勝利した喜びには、自らの力と成功を誇る慢心の心に、悪魔が付け入る危険性が潜んでいるからだ。このような時こそ、謙遜にならなければならない。それより）**むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。**」

→サタン（悪魔）は、神と神の民に敵対する勢力の指導者である。

→神の国に入ることができる人の名は「命の書」に登録されていると言われている。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：8 / 聖句等の総数 33250 (命の書)8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：命の書]
K 詩編	69:29 命の書から彼らを抹殺してください。あなたに従う人々に並べて／そこに書き記さないでください。	
S フィリピの信徒への手紙	4:3 なお、 <b>真実の協力者</b> よ、あなたにもお願いします。この二人の婦人を支えてあげてください。二人は、命の書に名が記されているクレメンヌや他の協力者たちと力を合わせて、福音のためにわたしと共に戦ってくれたのです。	
S ヨハネの黙示録	3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。わたしは、彼の名を決して命の書から消すことはなく、彼の名を父の前と天使たちの前で公に言い表す。	
S ヨハネの黙示録	13:8 地上に住む者で、天地創造の時から、屠られた小羊の命の書にその名が記されていない者たちは皆、この獣を拜むであろう。	
S ヨハネの黙示録	17:8 あなたが見た獣は以前はいたが、今はいない。やがて底なしの淵から上って来るが、ついには滅びてしまう。地上に住む者で、天地創造の時から命の書にその名が記されていない者たちは、以前いて今はいないこの獣が、やがて来るのを見て驚くであろう。	
S ヨハネの黙示録	20:12 わたしはまた、死者たちが、大きな者も小さな者も、玉座の前に立っているのを見た。幾つかの書物が開かれたが、もう一つの書物も開かれた。それは命の書である。死者たちは、これらの書物に書かれていることに基づき、彼らの行いに応じて裁かれた。	
S ヨハネの黙示録	20:15 その名が命の書に記されていない者は、火の池に投げ込まれた。	
S ヨハネの黙示録	21:27 しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れぬ。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れる。	

21 そのとき、イエスは**聖霊**によって喜びにあふれて言われた。

「**天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのこと**（→救いの道）**を**（自らの知恵だけで神を解釈しようとした）**知恵ある者や賢い者**（→ファリサイ派の人たち）**には隠して、幼子のような**（ただイエスを信じ、イエスに従う）**者にお示しになりました。そうです、父よ、これは**（あなたの）**御心に適うことでした**（for so it seemed good in Your sight）。

→天地の主 聖書には3か所に登場し、ここ以外に、マタイ 11：25、使徒言行録 17：24 に登場する。

22 すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに、子がどういう者であるかを知る者はなく、父（なる神）がどういう方であるかを知る者は、子（であるわたし）と、子（であるわたし）が示そうと思う者（→父なる神のことを知らせようと選んだ者たち）のほかに、だれもいません。」

→（リビング・バイブル）すべてのことで、わたしはあなた（→父なる神）に任せられた役割を務めます。あなただけが子であるわたしの、ほんとうの姿をご存じですし、あなたのことをほんとうに知っているのは、子のわたしと、あなたを知らせようとわたしが選んだ者たちだけなのです。」

→（NIV）All things have been committed to me by my Father. No one knows who the Son is except the Father, and no one knows who the Father is except the Son and those to whom the Son chooses to reveal him.

→（NKJV）All things have been delivered to Me by My Father, and no one knows who the Son is except the Father, and who the Father is except the Son, and the one to whom the Son wills to reveal Him.

23 それから、イエスは（十二）弟子たち（→12人の使徒たち）の方を振り向いて、彼らだけに言われた。

「**あなたがたの**見ているものを見る目は幸いだ。24 **言っておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞いたかったが、聞けなかったのである。**（あなたがた十二人はいにしへの預言者や王たちよりも大きな特権を与っている。彼らはメシアや奇跡を見たくても聞きたくても、それらを見ることも聞くこともできなかったからである。わたしはいにしへの預言者たちが預言したメシアである。）」

→12人：イスラエル12部族の代表、70（72）人：異邦人諸国（伝道）の数

収穫は多いが、働き手が少ない（マタイ9：17、ルカ10：2）

主イエスは、「収穫は多いが、働き手が少ない」と嘆かれました。

色々な面で、現代人の置かれている状況が厳しければ厳しいほど、苦しむ人びとの痛みが共有できるような「働き手」が、幅広く求められています。

この時代にこそ、そのような「働き手」を求める主の招きに応える器が必要です。